

課題番号 LZ003

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実施状況報告書(平成22年度)

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	日本と世界における貧困リスク問題に関するエビデンスに基づいた先端的学際政策研究
研究機関・ 部局・職名	東京大学・大学院経済学研究科・准教授
氏名	澤田 康幸

1. 当該年度の研究目的

本研究では、リスクの研究と貧困研究とをエビデンスの蓄積と分析によって有機的に統合するため、貧困問題を(1) 自然災害リスク、(2) 精神健康リスク、(3) 身体健康リスクという三つの見地から厳密な学術研究を行い、有効な貧困対策について議論することが目的であるが、平成 22 年度は、第一に、周到な調査デザインに基づき実態を詳細に明らかにするためのマイクロデータの収集、第二に、そうした大規模データを最先端のマイクロ経済学的手法を用いて学際的な見地から分析する研究活動の実施、第三に、実態調査から得られた知見を実践に有効に生かすべく、政策的な研究提言と実践、という三つの枠組みに従って、組織的な研究プロジェクトの制度設計・調査研究の準備を行う。より具体的には、四川大地震の被災児童に関するマイクロデータの収集準備、バングラデシュの自然災害やフィリピン・ベトナムを中心とした貧困リスクについての実態調査の準備、マラリア・ナガナ病の調査設計、自殺統計のデータの解析、高齢者の生活実態調査を実施するための調査地点決定・質問票改訂などの調査設計と準備、各種障がい者団体を通じた実態調査データの分析計画の構築、ネパールにおいて実施する実態調査の設計を行う。

2. 研究の実施状況

平成 22 年度は、第一に、4 月に実施した四川省大地震の被災児童調査の準備を行った。より具体的には、四川省地震後、汶川県の学生らが物質的金銭的に他者から補助を受けたこと、また一時的に新しい学校に移ったことによって、彼らの行動が変わったかを検証するための調査の準備である。より具体的には、中国四川省汶川県・茂県の 10 の中学校・高校の約 1500 人の学生にたいして、主に利他性(Altruism)を計測するための調査の実施準備を行った。

また、バングラデシュの自然災害調査の準備のため、ニューヨーク大学、George Washington 大学、Dhaka 大学、Bangladesh Institute of Development Studies の研究者から情報収集を行った。さらに、フィリピン・ベトナムにおけるコミュニティのリスクシェアリング機能について、既存のデータを分析し、今後の調査計画についての検討を行った。障害問題については、ネパールにおける障害者の就学状況について、既存データを検討し、今後の調査・実験計画の元になる理論枠組みの構築・準備を進めた。

3 月 11 日に東日本大震災が発生したため、本研究の柱の一つである自然災害の問題として、本研究においても取り上げて行くことが妥当と考え、震災に関する基礎情報の収集、阪神淡路大震災・中越地震

様式19 別紙1

といった過去の地震の経験の整理、東北地域における今後の調査計画についての検討を行った。

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 4 件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計 0 件 (掲載済み一査読無し) 計 0 件 (未掲載) 計 3 件</p> <p>Yasuyuki Sawada and Satoshi Shimizutani “Consumption Insurance and Risk-Coping Strategies under Non-Separable Utility: Evidence from the Kobe Earthquake,” <u>Review of Economics of the Household</u>.近刊(採択済)</p> <p>SAWADA Yasuyuki & NAKATA Hiroyuki & KOTERA Tomoaki, 2011. “Self-Production, Friction, and Risk Sharing against Disasters: Evidence from a developing country,” Discussion papers 11017, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI).</p> <p>SAWADA Yasuyuki & Rima BHATTCHARYAY & KOTERA Tomoaki, 2011. “Aggregate Impacts of Natural and Man-made Disasters: A quantitative comparison,” Discussion papers 11023, Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI).</p>
<p>会議発表 計 4 件</p>	<p>専門家向け 計 4 件 澤田康幸「四川地震と人的資本形成」近未来課題解決プロジェクト・ブックカンファレンス 2 月 20 日、一橋大学佐野書院 澤田康幸「On the Role of Official Development Assistance in Facilitating Growth and Reducing Poverty: Views from Japan and East Asia」国際大学、2 月 21 日。 Yasuyuki Sawada “How is Consumption Smoothed against Income and Asset Shocks Induced by an Earthquake? The Case of the Chuetsu Earthquake” Seminar, University of Hawaii at Manoa, March 30 (招待講演). Yasuyuki Sawada “How Do Households Cope with Natural and Human-Made Disasters?” 70th Conference of Association of Asian Studies, Honolulu, Hawaii, March 31, 2011 (Purdue 大学プロジェクトによる招待講演).</p> <p>一般向け 計 1 件 澤田康幸・Kamal Lamichhane「障がい者の教育年数と賃金：ネパールの事例」READ 公開講『障害者の教育と経済活動—計量分析による分析結果の紹介とそのインプリケーション』東京大学経済学研究科棟、2011 年 3 月 5 日。</p>
<p>図書 計 0 件</p>	
<p>産業財産権 出願・取得状況 計 0 件</p>	<p>(取得済み) 計 0 件 (出願中) 計 0 件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	

様式19 別紙1

<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>一般向けの公開講座において、途上国の障害者が置かれている社会環境につき、教育の観点から紹介した。</p> <p>「障がい者の教育年数と賃金：ネパールの事例」READ 公開講『障害者の教育と経済活動－計量分析による分析結果の紹介とそのインプリケーション』東京大学経済学研究科棟、2011年3月5日、一般向け、参加者約150名。</p>
<p>新聞・一般雑誌等掲載計0件</p>	
<p>その他</p>	

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成22年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額
直接経費	103,000,000	0	40,130,000	62,870,000
間接経費	30,900,000	0	12,039,000	18,861,000
合計	133,900,000	0	52,169,000	81,731,000

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を 除く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度 執行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額
直接経費	0	40,130,000	0	40,130,000	5,921,651	34,208,349
間接経費	0	12,039,000	0	12,039,000	0	12,039,000
合計	0	52,169,000	0	52,169,000	5,921,651	46,247,349

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	464,952	ノートパソコン、書籍等
旅費	0	
謝金・人件費等	16,500	指導助言謝金
その他	5,440,199	現地調査依頼費用
直接経費計	5,921,651	
間接経費計	0	
合計	5,921,651	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		